小松島市における昭和南海地震体験談の発掘とその証言

徳島大学環境防災研究センター　○正会員　魁生知佐子
徳島大学環境防災研究センター　　正会員　中野　晋
徳島大学環境防災研究センター　　正会員　黒崎ひろみ
小松島市横須町自主防災会　　非会員　三宅　祥寿

1. はじめに

2006年1月現在，想定南海地震の発生確率は50%程度と予測されているが，今後ますます上昇することとなる．徳島県内でも海陽町浅川の津波防波堤が竣工したほか，自主防災組織の結成促進，津波避難方法の検討，緊急避難ビルの指定等の各種対策が進められている．一方，1946年に発生した昭和南海地震から60年が経過し，体験者の高齢化が進むなか，貴重な体験の風化が心配されている．平成17年度末までに，徳島市[1)]，阿南市[2)]，海陽町[3)]などの沿岸市町や徳島地方気象台[4)]により，南海地震の体験談集が刊行されている．しかし，死者1名の津波被害を被ったとされる小松島市では1名の体験談が掲載された小松島市史[5)]以外に住民の体験が収められた刊行物は公表されていない．そこで筆者らは，小松島市での昭和南海地震被害に関する資料収集を行うとともに，小松島市横須町自主防災会の協力を得て地震体験者からのヒアリング調査を実施した．

2. ヒアリング調査

図－1に調査を行った小松島市横須町の位置を示す．この町の中央部を斜めに県道（旧国道55号）が走っており，その北東側は横須海岸に面した古い漁師町，南西側は比較的新しい住宅地が拡がる．この地区はこれまでにも町内で盛大に祭礼を執り行うなど活発な自治会活動が続けられていた中で平成17年7月に自主防災会が組織されている．自主防災会では月1回の役員会などを行い，自主防災の面でも継続的な取り組みが行われつつある．そうした活動の一環として平成19年1月28日に住民12名の協力を得て，南海地震体験談のヒアリング調査を座談会形式で行った．

3. 調査結果

小松島市消防本部[6)]のまとめによると，昭和南海地震により小松島市内では，死者1名，家屋流失2件，全半壊16件，浸水344件，堤防決壊3ヵ所，橋流失2ヵ所，船流失11艘である．また，海岸線の沈下や地盤変動が著しく，横須地区を挟む地域の路上には幅20cm長さ50mに及ぶ数条に亀裂がみられたと報告されている．海上保安庁の報告[7)]には，「地震後2割ほどの井戸が枯れた」とある．なお地震は，墓石や石垣等の倒れ方から東西に揺れている[5)]．

表－1は，小松島市横須地区における体験談から，地震被害と津波被害に関する証言をまとめたものである．なお横須地区では死者はゼロである．地震の揺れ方について，船酔いした感じでとても歩ける状態ではなかったとの証言が得られた．地震被害は，家が傾き戸の開閉ができなくなった，レンガ造りの塀が50m倒れていた，沿岸域では50cm幅の亀裂が道路に入っていたなど，具体的な被害状況が証言された．さて，体験者の多くが，井戸水が枯れて粘土の味がした，また「弁天さん（**写真－1**：金磯弁財天）」から「お不動さん（**写真－2**：不動明王）」に至る海岸線に沿った約1.5kmもの区間に亀裂が入ったと証言している．さらに．沿岸から数十メートル離れた内陸部で，液状化被害に関する証言が得られている．井戸の変化に関しては，小松島市内は30～40cm程度沈下していることより地盤沈下の影響と，海岸線の亀裂は液状化の影響と推測できる．ここで，亀裂，地盤沈下，液状化の3つのキーワードは，小松島市以南の阿南市鷲地区の体験談を境に徳島県北部に見られる．もちろん，徳島県南部にもこれらの影響が現れていると考えられるが，津波被害が甚大であったため，瓦礫等で隠れたと推察できる．

図－1　小松島市横須地区

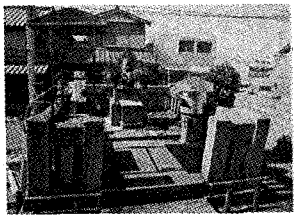
図－2に運輸省水路部（現在は海上保安庁）の報

表－1　小松島市横須地区の昭和南海地震における体験談の一例

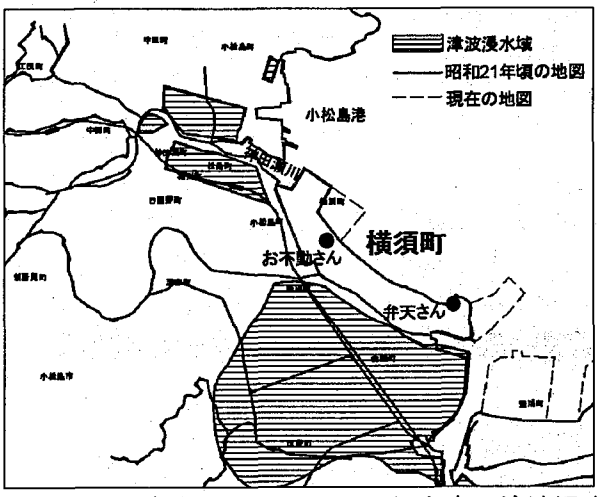
地震体験	津波体験
自分は寝ていて「起きろ」と祖母に言われて慌てて起きた．動けなかった．	みんなが漁に出ていて大きな船がなかった．津波によって流されたのは手漕きの小さな船だったので復興が楽だった．
木造2階建てに住んでいた．立てかけ方の階段で，2階に兄弟5人がいたが降りるに降りられなかった．杉を瓦の下に引いていて，すぐに瓦が落ちてきて危なかった．船酔いしたような感じでとても歩ける状態でなかった．平屋が多く，土壁の家だった．壁が落ちた．	「津波がくるぞー」という声が聞こえたので逃げた．みんなが乳母車なんかに衣を入れて，恩山寺を目標に逃げた．真っ暗でも川は見えたので逃げることができた．井戸水が枯れる．1週間だけ粘土の味がした．
江戸時代後期に建った家．南から北へおおきく揺れた．裏のレンガ造りの塀が50mぐらいパタンと倒れていた．家が傾いて戸の開け閉めができなかった．液状化を見た．家の前からマスカット内科病院の道路をまたいでみやもとさんのところまで50cm幅の亀裂が入った．亀裂は四電の石炭ガラで埋めた．進駐軍がジープで走っていたのですぐに埋めなければならなかった．	沼島へ漁に出ていた．海の上で(地震が)ぜんぜんわからなかった．船長に「大波が来た」と言った．津波も知らずにその後も漁をした．神田瀬川に漁船が2隻あった．海から帰ってきたら凪になっていて材木がぼこぼこ流れてきた．道の上に漁船がいた．カネキュウ注)の煙突がなかった．沼島までは50Kmある．30Km～50Kmくらいは津波を感じなかった．
弁天さん(写真－1)からお不動さん(写真－2)まで亀裂があった．	潮が向こうへ行ったので追いかけていった．津波が来たので逃げた．防波堤は超えなかった．

注)「カネキュウ」は通称名で，漁師などにそう呼ばれており干物を乾かしりする場所として使われていた．現在は蒲鉾店となっている．
「四電の石炭ガラ」は現在の小松島市役所の位置で操業していた徳島火力発電所で排出されていたものを使用したそうである．

写真－1
弁天さん（金磯弁財天）



写真－2
お不動さん（不動明王）



図－2　昭和南海地震における小松島市の津波浸水域

告[7]による小松島市における津波浸水域[7]を示す．津波被害は，海上にいた漁師らからは「津波には気づかなかった」と，陸上で津波を見て，干上がった海岸に降りた経験をもつ住民からは「津波は海岸堤防を越えなかった」との証言が得られた．すなわち横須地区では，津波による被害はほとんど受けていないことがわかる．なお，小松島市海岸部での津波最高位は横須海岸の北端で1.6m[7]と，海岸堤防の地高よりも低い．一方，浸水地域は，海岸付近よりも地高が低く，特に神田瀬川周辺では，津波の遡上により浸水している．

4. まとめ

本報告では，小松島市における昭和南海被害に関する既存資料を整理するとともに沿岸域に位置する横須地区の体験談をまとめた．地震動（水平動方向など）や被害状況の一部に既存資料と体験談とで相違が見られたほか，被害の発生状況の分析はできていない．体験談の収集場所が限られているため，本地区以外の体験談の掘り起こしを行い，詳細な検討を行う予定である．

参考文献

1）徳島市消防局：徳島市昭和南海地震体験談に見る徳島市の姿と知恵，151p.，2003.　2）鵠津波を語り継ぐ会：地震津波体験の記録「恐怖の大津波」，94p.，2003.　3）徳島県海部郡宍喰町総務課：南海大地震～五十年の記憶と教訓～，104p.，1996
4）徳島地方気象台：昭和南海地震聞き取り調査，あの惨況を忘れない・・・　75p.，2006.　5）小松島市史編纂委員会編：小松島市史，pp.566-567，1974.　6）小松島市消防本部：小松島消防史，pp36－37，1976.　7）運輸省水路部：水路要報増刊号，昭和21年南海大地震報告（地変及び被害編），pp.35-39，1948.